

保護者の皆様

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立桂坂小学校

4月18日に、本校6年生児童128名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。本調査は国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国語 AB, 算数 AB ともに全国平均を上回りました。その中で、特に算数 B においては全国平均を10ポイント以上上回り、他よりもさらによりよい結果が見られました。また国語 AB, 算数 AB ともに領域別、観点別、問題形式別にみてもすべてにおいて全国平均を上回るという結果が見られ、学力の定着も安定していると考えられます。

国語科より

国語 A では「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」問題、国語 B では「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える」問題など、平均と比べると“読むこと”に学習の成果が見られます。家庭での言語環境の豊かさを背景に、国語の授業の中で説明文や物語文の読解指導を重ねてきていることがよい結果を生み出した要因として考えられます。

一方で、国語 B の「目的や意図に応じ、引用して書く」問題や「必要な内容を整理して書く」問題など、“書くこと”に課題があると言えます。今後、国語はもちろんのこと、他の学習でも自分の意見や感想などを書く機会を増やすとともに、書く目的や意図を明確にして、他の人の意見を引用したり、内容を選択したりする学習を取り入れる必要があると考えます。

算数科より

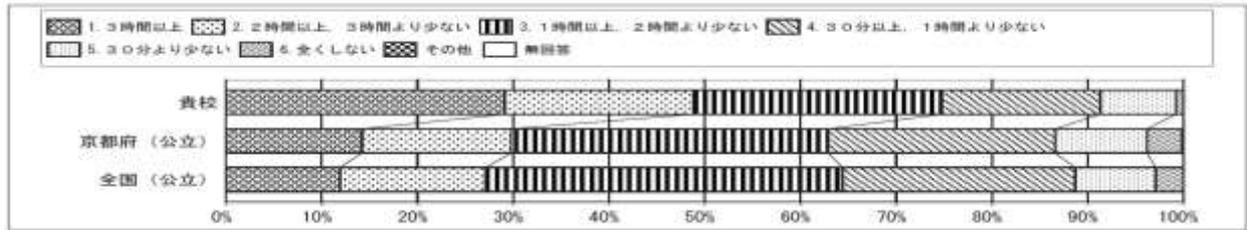
算数 AB では、すべての問題・領域において全国平均を上回っています。特に算数 B については、全ての領域で全国平均を10ポイント以上上回っていることから、学習した知識や技能を“活用する力”が高い子どもたちが多いと言えます。

ただし、算数 A の「任意単位による測定について」や「高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係」を問う問題では、正答率は他の問題よりも低いです。また、算数 B では“割合”に関わる問題に課題が見られます。今後、式の意味を図や言葉で説明したり、もとにする量とくらべる量の関係を図に表したりするなど、正答のみを追うのではなく、各単元につながる“数学的な考え方”ができるように低学年から系統的に学習する必要があります。また ICT 機器の活用により、数学的な考え方を深める支援を行っていく必要があると考えます。

児童質問調査から

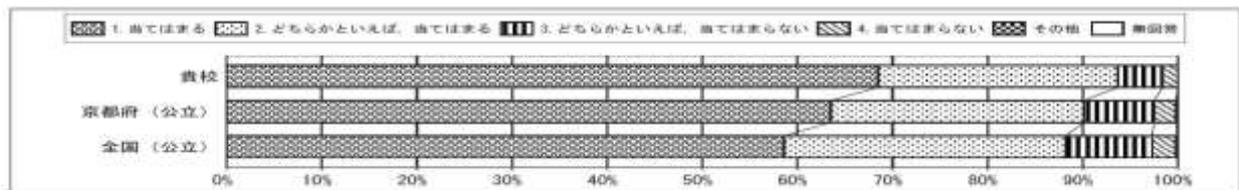
Q 学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか？

（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

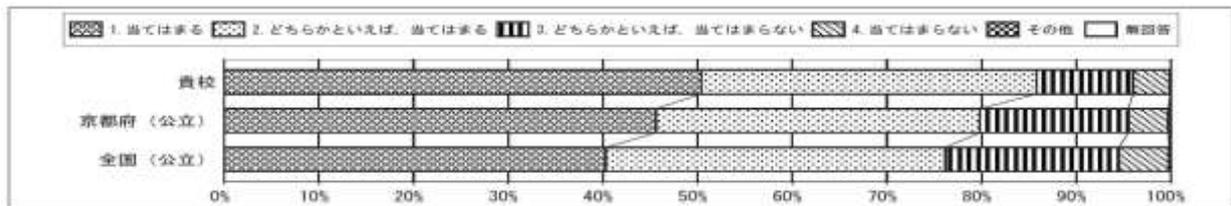


学校の授業以外の学習時間が全国平均より大きく上回っています。ご家庭での支援等によって家庭学習が定着している良好な実態がうかがえます。

Q 5年生までに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか？



Q 5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか？



上記の結果から、明確な「めあて」を提示し、それに対する「振り返り」をする授業スタイルが確立しつつあります。次期学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、今後も取組を進めていきます。

全体を通した本校の成果と課題

「知識及び技能」の習得、そしてその「活用」については、授業改善と家庭学習の充実によって一定の成果が上がっていると考えられます。一方、「書く」「話す」といった表現力が課題として挙げられます。今後、全教科で自分の考えを表現する機会をさらに増やし、互いの考えを整理するとともに、他の考えを取り入れながら、考えを深めることができるように指導していく必要があります。これは、本校の学校教育目標である「人と豊かにかかわり、進んでまなび合う桂坂の子」の実現と同義であると考えます。保護者や地域の皆様の協力を得ながら、取組を進めていきたいと考えます。

保護者の皆様へ

本調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばし、課題を解決していくためのものです。今回の結果をふまえ、全体や個々の課題をしっかりと見極め、ご家庭と連携を密にしながら学力向上に取り組んでいきたいと思ひます。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。